

(4) 造成



■造成計画

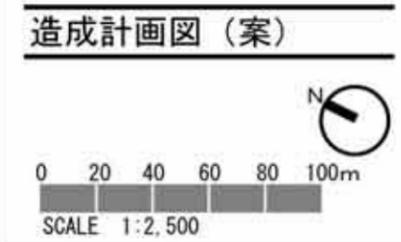
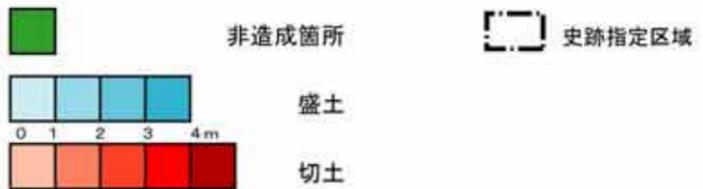
- 造成計画を進める上で、基本的な考え方を以下に示す。
- ・キトラ古墳周辺部の南斜面や谷部の棚田などの地形の保全を図る。
  - ・付近の集落にみられる花崗岩自然石積み、または檜前寺跡で出土された瓦積みなど、景観に配慮した構造物の配置により、造成量、造成面積を最小限にする。
  - ・計画地内水路は下流部に受益地を有することから、計画流域は現況流域を守る造成であることとする。
  - ・現況の水源涵養能力を維持すべく樹林地部の造成を最小化する

○各箇所の造成の考え方

- ・古墳及び周辺環境保全エリアは、現況地形の保全を第一義とし、古墳の鑑賞空間となる約80人が滞留可能な平坦部の創出と身障者が快適に移動できる園路勾配を設定できる造成をおこなう。
- ・歴史体験学習エリアは、体験学習広場から芝生広場までの活動型レクリエーションスペースは連続的に利用できるよう、現在の段状谷底部に盛土をおこなう。また、体験学習施設及びサブ駐車場を設置する箇所については、現況の段状地形を活用し、構造物の設置をなるべく避ける。
- ・歴史的風土保全活用エリアは、現況の棚田部の段状地形をはじめとして地形の保全を図る。
- ・情報案内エリアは、駐車場や管理施設など平坦地を必要とする便益機能の配置をおこなうため、一定の造成を要するが、周辺の棚田景観と調和するスケールで、段状地形を基本としながら施設配置をおこなう。

○造成量

歴史的風土の保全の観点からも造成範囲を極力抑えるものとし、全体の3分の2が現況地形を保全・活用した計画案となった。特に、キトラ古墳特別史跡指定区域や於美阿志神社近接部などの史跡周辺部については、現況保全を前提とするが、造成が必要な箇所については盛土のみとする。また、樹林地や農地についても、造成をできるだけ避け、肥沃な表土の保全を図ることとした。



	面積	土量
非造成箇所	7.7ha	—
盛土	3.4ha	35,000m <sup>3</sup>
切土	2.3ha	34,000m <sup>3</sup>